

第8回信濃美術館整備委員会 議事録

- 開催日時 令和元年12月12日(木) 13:30～15:20
- 場所 長野県庁3階 特別会議室
- 出席者
- 委員 竹内委員長、荻原委員、北村委員、小坂委員、小林委員、中平委員、野原委員、橋本委員、樋口委員、福島委員、松本委員、山浦委員、渡辺委員(欠席:近藤委員、佐野委員、谷委員)
- 長野県 増田県民文化部長、日向信濃美術館整備室長、久保田施設課企画幹、細野信濃美術館整備室課長補佐
- 信濃美術館 井上副館長兼広報マーケティング室長、田中学芸課長
- 設計者 (株)プランツアソシエイツ 代表取締役 宮崎浩氏

1 開会

(細野信濃美術館整備室課長補佐)

ただいまから、第8回信濃美術館整備委員会を開催いたします。本日の進行を務めます信濃美術館整備室の細野です。どうぞよろしくお願ひします。

はじめに、増田県民文化部長よりご挨拶申し上げます。

2 あいさつ

(増田県民文化部長)

本日は第8回信濃美術館整備委員会ということで、前回は7月に皆様にご出席をいただきご意見を頂戴しました。それ以降の状況を申し上げますと、8月からふるさと納税による募集を行っております。「新美術館みんなのアートプロジェクト」ということで、無料ゾーンに展示する触れる美術作品や映像作品を制作するプロジェクトの寄付募集を開始したところです。2千万円を目標としていますが、現時点で110万円余り、これから大いに頑張っていかなければならないところです。

10月5日に東山魁夷館がリニューアルオープンし、大変ご好評をいただいております、これまで2万人を超える方にご来館いただいているという状況です。

開館まであと1年3か月、ハード、ソフト両面で準備を本格化し、詰めに入っていくという段階になっております。建設は順調に進んでおり、本日の委員会では、準備状況につきまして、皆様方にご報告を申し上げるとともに、主にソフト面について基本構想をもとに準備を進めているところでございますが、皆様方のご意見を頂戴したいと考えております。

また、運営の面につきましてもご意見をいただければと思っているところでございます。

それぞれのお立場から、ご意見、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしく申し上げます。

(細野課長補佐)

本日は、近藤委員、佐野委員、谷委員が都合により欠席されております。

また、今回から初めて出席される委員をご紹介します。長野県美術教育研究会研究推進委員の中平委員です。自己紹介をお願いします。

(中平委員)

長野県美術教育研究会研究推進委員の中平です。現在屋代中学校で美術の担当をさせていただいております。よろしく申し上げます。

(細野課長補佐)

ありがとうございました。この委員会は、設置要綱により、委員長に議長をお務めいただくことになっております。以降の進行について竹内委員長よろしく申し上げます。

3 議 題

(1) 新美術館の取組

(竹内委員長)

それでは今日は4つの議題を用意してありますが、具体的な運営の側面が出てまいりましたので、信濃美術館の職員の方からも説明をいただきたいと思えます。

それでは議題に入ります。(1) 新しい美術館の取組について、信濃美術館の松本館長からご説明いただき、その後、美術館の職員の方から説明をお願いします。

(松本委員 (信濃美術館館長))

資料1「新県立美術館の事業体系」をご覧ください。新美術館の事業は、1頁目に挙げた3項目、「鑑賞」、「学び」、「交流」を3本の柱としています。2頁目のアート・ライブラリーは、「鑑賞」や「学び」を支援する機能をもち、また「広報」は、全事業に関わる重要な役割をもっています。事業ごとに開館に向けた進捗状況に違いがありますが、ここでは、新しい美術館の「鑑賞」に関わる事業、すなわち「本館コレクション」と「企画展」のあらましを説明させていただきます。残る事業のうち「学び」と「広報」については、後ほど井上副館長と田中学芸課長から、説明させていただきます。

鑑賞の本館コレクションについて説明させていただきます。これまで信濃美術館は、収集方針に即して長野県ゆかりの作家と、信州の風景を描いた作品を中心に収集に努めてまいりました。この方針は県立美術館として当然ですが、今後は既存の

コレクションを足掛かりにして、関連する作家や分野の作品を、もう少し幅広く収集しようと考えております。例えば「風景画」に限らず、「自然」や、「自然環境」や、「自然と人間」をテーマにした作品で、後世に残すべき優れた作品があれば収集したいと思っております。また、ひとまとまりの作品コレクション及び資料コレクションとして一括して収集・保存すべきコレクションがあれば、これも収集したいと考えております。昨年度、収集しました信濃デッサン館コレクションがこれにあたります。また、本館に新設されるコレクション展示室は、明治、大正、昭和から現代までの作品を展示することを目標にしています。既存のコレクションでは手薄な戦後作品の充実をも含めて、収集事業を開始しております。もう一点、収蔵作品のデータベース化を現在進めており、開館した頃にはインターネットで検索するシステムを開設いたします。

次に、企画展事業についてお話しいたします。新しい本館は、善光寺御開帳のある2021年春に開館いたしますが、日本画など脆弱な作品については、コンクリート打設後二夏の枯らし期間を経て展示することが推奨されております。2021年開館の年の夏が、二夏目にあたります。新しい美術館は、国宝・重文等の公開承認施設認定を目指しており、展示環境という点では非常に高いスペックを設定しております。例えば、空調設備については、防塵フィルター以外にケミカル・フィルターをも装着するなど、設備面では、何も心配がありません。しかし、新規竣工した美術館への作品の貸出に際しては、多くの美術館は、完成した建物内で計測した温湿度などのデータの提出を貸出条件としています。建物が引き渡されるのは開館の数ヵ月前であり、一方、他館への作品の借用依頼は、遅くとも1年前には行わなければなりません。これが、開館記念展についてはネックとなります。いずれにせよ2021年春の開館記念展は、日本画や木彫等の展示ができないという制約の下で開催されることになり、テーマとしては善光寺信仰を始めとする「祈り」、これをテーマに、映像を中心にさまざまな趣向をこらした展覧会を準備中です。また、春から夏にかけて、現在寄付金を募集中の映像作品や大型のアニメーション作品、それに加えて触れる美術作品なども、順次公開してまいります。同じく2021年の開館年に開かれる展覧会の多くは、秋以降に重文を含む展覧会を開催することになりますが、それらの多くは他県の美術館や新聞社、テレビ局との共催展です。各展覧会は、共催者、共催館と足並みを合わせて一斉に発表することになっており、発表できるまでには、まだしばらく時間がかかります。

(竹内委員長)

ありがとうございました。ご意見、ご質問等あるかと思いますが、もう少し説明を伺ってからお願いしたいと思います。

それでは、美術館におけます「学び」について、信濃美術館の田中学芸課長からご説明願います。

(田中信濃美術館学芸課長)

資料1①により説明

(竹内委員長)

ありがとうございました。最初に松本館長から全体の構想について話がありました。そして、新しい美術館の大きな柱の一つ「学び」について田中学芸課長から説明がありました。今までのところでご意見、ご質問があればお願いします。

(荻原委員)

学びのことでお尋ねしたいと思います。資料1①では、今回、ボランティアが重要なところになっていて、かなり意欲的な教育普及プログラムです。これを学芸員だけでやるのは大変難しいでしょうし、ボランティアの方々にコミュニケーターという形で活躍していただくという方向性は必要なことだと思います。とはいえ、対話型鑑賞プログラムですとか、障がいのある方への対応もこれから開発が必要な部分もあります。この学びの6つの柱は、全てが一斉に始まるのではなく、順に段階を経ながら、経験をしながらやっていくような印象を受けました。いつから、どのようなスケジュールでやっていこうとしているのかお尋ねします。

もう一点、目指す姿として、信州と日本、世界への交流のステージという言葉があります。例えば、善光寺からやって来る外国人のお客様がいらっしゃる中で、美術館では印刷物や音声など多言語化の検討をされているのか、お聞きします。

(松本館長)

ボランティアの募集自体は今年度中から始め、来年度から養成する予定です。例えば作品解説でも、対話型と純然たる解説がありますが、来館者の中には相当詳しい方もいて、いきなりでは難しいと思いますので、大人向きの解説は少し後になると思います。それから、触れる美術作品は専用のギャラリーを設けますので、常時案内役が必要になります。目の不自由な方にもご参加していただくワークショップは、専門的な知識が必要で、最初は美術館の学びを担当する職員の補助から始めていきます。

多言語化については、日英中韓は基本的には必要と考えています。例えば、東山魁夷館の場合、あいさつの部分だけ4か国で表示していますが、要所、要所で必要になります。音声ガイドも展覧会によってつける場合もあり、コレクション展をどうするか、これは具体化の工程にはまだ入っていません。

(田中課長)

ボランティアは今年度中に募集を始め、来年度はオープンの時期までじっくり養成します。レベルの違いは出てくると思いますし、応募した一人ひとりの個性に応じ、いくつかの分野でそれぞれ対応していただくとの考えです。

(橋本委員)

私が信濃美術館在籍中、視覚障がい者の方が積極的に活動され、「私たちも作品は観ることはできます」という言葉が非常に印象に残っています。決して触覚だけでなく、いわゆる普通の作品を、お手伝いは必要ですが、その方法もしっかりしたものがなければいけません。長野県はそういった点では視覚障がい者や他の障がい者にも積極的に信濃美術館に関わっていただいております、学芸員もその経験がありますので、それを土台に、触れるばかりでなく、実際に観て感じる鑑賞も高めていってほしいと思います。

(松本委員)

とても重要なことをご指摘いただきました。全く見えない方、生まれて途中からかでは全く違うであろうし、程度の違いはあれ多少見える方もいらっしゃる中で、こちら側の基準のメニューを用意して進むものではないと思います。身体が不自由な方については、これまで三度意見を伺う機会を設けましたが、目の不自由な方だけでなく、耳の不自由な方も来ていただいた。わざわざ飯田からバスで来られた方もいて、長野県には非常に熱心な方がいらっしゃることも心得ながら、プログラムを策定していきたいと思います。

(竹内委員長)

これまでやってきたことを拡充するもの、新たに実施するもの、急にはできないので、テストランの段階がないと実現できないと思います。信濃美術館には今までの積み重ねがあるので拡充と新規の取組もスケジュール感をもってやっていけばよいでしょうし、試行錯誤もあると思いますが、新しい感動を生むものでありますからぜひ頑張ってくださいたいと期待します。

次に新美術館の広報・集客戦略について、井上副館長からご説明をお願いします。

(井上信濃美術館副館長)

資料1②により説明

(竹内委員長)

それなりの費用はかかるとは思いますがどのようにお考えですか。

(井上副館長)

莫大な費用がかかるものはございませんが、どういう形で生み出していけばいいのか皆さんと相談させていただきながら考えていきたいと思っています。

(竹内委員長)

館内でスマホを撮れるか、つまり情報を発信できるかも重要ですね。館内が撮影禁止であるとそういうことはできないが、その辺はどうお考えか。館内での写真撮

影が自由かどうかは大きなことです。

(井上副館長)

それはこれから論議しなければいけないことで、私は広報の立場で申し上げますが、実際にどういう形で館内を撮影できるようにするのか、あるいはできないようにするのか。例えば森美術館は前提として、美術展の企画段階から写真撮影できるようにしていますが、私どもの美術館はそういうものでもありませんので、これからどういう形で館内の情報ができるのか、できないのか。ただ作品全部の写真撮影ができなければ情報発信ができないというわけではありませんので、館内でいわゆるインスタ映えするスポットを作っていくながらというふうに考えています。

(竹内委員長)

外国、アメリカやヨーロッパでは館内での写真撮影が随分自由になってきています。そうしないと発信もできない訳ですが、このことについてご意見いただけないでしょうか。

(山浦委員)

日本の美術館はほとんどが写真撮影禁止ですよ。外国の有名美術館はほとんど撮影できますが、どういう理由があるのでしょうか。

(松本委員)

国立美術館の多くは作品一点で撮らなければコレクションの展示は撮影できます。ただ著作権をもっている方の承諾は必要ですが、むしろ撮られることを推奨している美術館、代表例は森美術館ですが、それとは逆に撮影を抑えようとする美術館があり、現代美術の個展では撮ってよしとする作家が増えてきているので、逆に撮れない個展に出会うとがっかりすることもあります。

(竹内委員長)

時代の差もありますが、撮影もだいぶ自由になってきました。

(山浦委員)

西洋美術館も撮影できるのでしょうか。外国は撮影できますよね。

(松本委員)

西洋美術館は正面からでなければいけないはずですが、外国は撮ることによって、作家や作家の遺族、遺族の財団が発信してもらった方がよいという考え方が強いと思います。

(竹内委員長)

著作権の問題で言うと、特に現代美術は厳しかったのですが時代が変わってきました。

(渡辺委員)

外国はフラッシュがだめだったと思いますが、その他は自由ですね。

(竹内委員長)

光は作品に影響を与えるのでフラッシュは禁止ですが、日本でも森美術館の例があり、だいぶ変わってきました。作家や美術館の鑑賞環境、社会的な認識の差もこれから出てくると思います。タイミングとしてはいい時期に信濃美術館はできるので、これから新しいルールでやればいいと思います。

(橋本委員)

すみだ北斎美術館の11月のホームページは15万3,327件のアクセスがあり、ツイッターは22万件、フェイスブックが2万件ありました。既にこういった時代に入っている、例示された森美術館の数値は、今の時代ではごく普通の状態になっているということです。信濃美術館、東山魁夷館はもっと影響力が大きいいと思いますので、ぜひ進めていただきたい。特別でなく、もう普通だという時代に入っているのではないかと思います。

(樋口委員)

新しい美術館はどういう美術館を目指しているか、その部分が大事で、マスコミの皆さんが何を語ればいいのか、それを提供しなければ報道のしようもないと思います。金沢21世紀美術館がオープンする時に報道されていましたが、丸い形の建物の周りに人が乗れるミニチュアトレンを敷設し、子どもを乗せました。何を語っていたかという、決して美術館は入りづらいというイメージではなく、誰でも市民の皆様も含め、子ども達もこの美術館に足を運んでほしいというメッセージだと思いました。そういう巧みな広報戦略を使ってPRしていき、その後において様々な賞を受賞していく美術館になっていき、金沢21世紀美術館というのは現代アートの収集をやりますということと、そして、誰でも来てください、ということのメッセージが非常に明確に出ていました。今度の美術館も何を語るのか、そういうところをもう一度確認させてもらいたいです。

(竹内委員長)

美術館の売りの部分と言いますか、何を一番のメッセージとして発信するかということについていかがでしょうか。

(松本館長)

一言で言葉にするのは非常に難しいところがあり、美術館の事業、コレクション、学びであり、金沢 21 世紀美術館は新しいコレクションがイメージとして発信され、建物の姿が発信され、その中で出てきた面があります。言葉以上にビジュアルな面に関しては、現在用意しているものを来年 4 月 25 日に一年前イベントから発表を始めるという段階です。言葉の上でキーとなるものを一つ上げるとすれば、検討委員会の皆様に作っていただいた言葉ですが、ランドスケープミュージアムというのが大きいと思います。立地的に美術館の東側の高い所から眺めると、善光寺の数百年ではきかない年月をかけて生まれてきた都市の景観が一望でき、その背景には山、自然環境、非常にビジュアルな要因を含んでいるので、やはりランドスケープミュージアムはキーになる、核となるコンセプトです。建物の設計自体もこれを常に念頭に置いていますし、今発表できるものとできないもの、これから発表するものも常に念頭に置かれているのが、ランドスケープミュージアムという言葉です。

(竹内委員長)

これは観光面ですとか、行政の方からもタイアップもなければいけないことだと思いますが、これに関してご意見はありませんか。

(橋本委員)

すみだ北斎美術館では、メールマガジンをご覧になった方に情報を与えています。各種イベントや企画展の情報をお送りし、現在、月に 383 名と人数は少ないですけども、潜在的なお客様がいらっしゃる。メールマガジンを見るということはかなり関心があることなので、そういったところも是非広げていっていただきたいです。

(竹内委員長)

具体的に姿が見えない中での議論も難しいですが、ご意見はありませんか。

(樋口委員)

今のメルマガもそうですし、お客さんが来るのをただ待っているだけでなく、どうやって確保するかという話だと思います。その中で、先程から学びという話が出ています。シニア層が多くなる中、生涯学習が盛んでカルチャーセンターで学ぶという中で、カルチャーセンターには美術に関連した講座もあり、そういう部分を上手くリンクさせていくという手法も有効であると思いますし、長野市の公民館活動でも美術なら美術で、それを極めようとしている人たちと上手くリンクさせていくと、お客さんの確保という意味においても、生涯学習を継続するためにおいても、きっかけとか、力とか、非常に有効であると思いますし、本当の意味で広がりが出てくると思います。

(竹内委員長)

美術館の検討の段階で一般の方からご意見をお聞きする機会が何度もあり、どこかの会場に行っても、飯田など南の方に行っても大勢の人に集まっていただきましたが、美術館建設の説明会にこれだけ人が集まってくるというのはあまりないと思います。例えば、それをさらに発展させて「出前講座」を実施するとか、館に来るという前提でいろいろなプロジェクトがあるわけですが、外に発信する、外に出て行くということについてはどうでしょうか。

(井上副館長)

先ほど樋口委員からご発言のあった生涯学習というのは大事なキーワードだと思います。今回東山魁夷館のリニューアル記念展を2カ月間開催したところですが、そこでのアンケートでは50歳以上の方が来館者の64.5%。東山魁夷館独特のものかもしれませんが、50歳以上が6割5分という数字です。先程申し上げたSNSは主に若年の方たちが主流になるものです。逆に館を訪れている方は50歳以上ですので、生涯学習というテーマでこちらの方も、いろいろな形で、ウェブをどう使うか、館内でどのような催しを行うかとか、ワークショップだとか、考えながら取り組んでいきたいと思います。

(小坂委員)

先ほど樋口委員から話のあったカルチャーセンターについて、長野県カルチャーセンターというのがあり、これはSBCと信濃毎日新聞がやっているものですが、水野美術館ではカルチャーセンターの講座を目指して美術館を訪れる人が結構集まっています。ぜひ長野県カルチャーセンターに限らず、いろいろな講座で信濃美術館を訪ねる取組があれば、個人で美術館に行くのと同じ見方では人は集まらないかもしれませんが、何か特別のものを見せてもらえるとか、説明があると有料でも参加する方がたくさんいらっしゃると思います。

それから、観光業者、団体との連携というのは、全国の美術館で成功している例などがあれば教えていただきたいです。

(井上副館長)

東山魁夷館が10月5日にオープンしましたが、その後、東京の大手旅行会社から1泊2日で野尻湖はじめ東山魁夷ゆかりの地を回った後、東山魁夷館で鑑賞するというツアーが少人数ですけれども4回組まれました。1回は台風で中止になりましたがそういう事例はありますし、他にもそのようなオファーが続いたものですから、それがきっかけで東京や大阪に向けて観光客を呼び込むこともあると思います。カルチャーというか、一般的な見学ではなく、このツアーは信濃美術館の学芸員が同行したもので、ちょっと奥を知りたいというようなニーズはこれからますます強まってくると感じています。

(北村委員)

信濃美術館開館以前に善光寺御開帳のPR・誘客活動で善光寺奉賛会が全国各地を回ります。北信越すべてのマスコミを回ります。また、札幌、仙台、東京、群馬、名古屋、大阪、福岡なども回ります。善光寺御開帳のポスターやチラシを持って回りますので、そこに美術館のパンフレットを入れさせていただければ私どもいくらでもPR活動に協力します。

(井上副館長)

私どもが善光寺御開帳奉賛会会長さん(北村委員)のところに伺ってお願いしなければならないところですが、この場で非常にありがたいお言葉をいただきました。前回の御開帳、2015年の時の新聞報道によりますと、707万人がお出でになったそうです。信濃美術館では新聞社と組んで企画展を開催しましたが、入場者は3万3千人でした。お隣に700万人お見えになったわけですが、その0.47%が信濃美術館にいらっしゃったということです。今回は、いわゆる御開帳関連のパンフレットやチラシに美術館の露出があまりなかったため、今回は是非タイアップしてアピールさせていただければと思っています。

(北村委員)

東山魁夷館についてもかなり善光寺を意識していただいておりますので、御開帳に来て、今まで知らなかったような所にもちょっと足を延ばしてみようというものがありますので、あまり失望したものではないと思います。

(小林委員)

私は長野市の成人学校で毎週郷土史を生徒さんに教えています。だいたい60代から80代で、一番上の方は96歳です。思った以上に皆さん長野のことを知らない、地元の人知らない、だから勉強したいということで来られます。10月29日に善光寺の北国脇往還、戸隠古道が文化庁の歴史の道100選に選ばれました。地元の方には丹波島の橋すら渡ったことがない。こんなに沢山いい宿場があって、いいところがあるのに知らないということで、いつももったいないと思っています。長野県立美術館ですので、南の方からも大勢来られるとか、ツアーで来られるとか、カルチャーセンターの方が来られるとか、という話がありましたが、実はここに向かってくる道というのが長野県にはたくさんあり、ある意味街道の文化でもありますが、善光寺街道に限らず、長野県を通る街道を知らしめる場所が実はない、だから分からない。美術館は普段見られないものを見に来るのも勿論です、実は普段見ているものの中に本当は違う美術があるということを、子ども達や地元の人、街道で繋がっている他の県の人にも気づいてほしい。文化があって、街並みがあって、息づく息吹があって、そういった普段見ているものの中にこそ美術がある、若しくは博物館があると私は思いますので、それを逆に知らしめる、気づかせる、子ども達に住んでいるところはこういう所だよ、こんなにいいものがあるよ、ここに来て初めて

知りました、というような気付きの場所であることも大事で、それこそ学びなのかと思えます。ここに来たことがきっかけで、興味を持ち、学びだす子ども達もきつといるだろうと思えますので、そういったきっかけづくりの美術館、それこそ県立美術館であってほしいです。ここだけが周遊して潤えばいいということではなく、ここに来て自分の所にもこんなにいいものがあった、今度行ってみるか、というような感じになるとよいです。バックパッカーや年配の人も結構歩きます。大きなリュックを背負って東海道や中山道、野麦街道を歩いている人がいます。そういう人達を抱き込むいいツールにもなるのかなと、そして一人ひとりが今度は発信すれば、通過点であり、出発点である美術館になり面白いと思えます。もちろん普段見られないものも見たいですけれども、普段見られるものの中に価値を見出せる気づきの場所であってほしいです。

(野原委員)

長野県の観光を推進するためにはどうしても広域で考えないといけない。小さな村や町の単位で一生懸命商品開発しても、そこに来る方だけでなく巡回するものなので、広域の中で商品化していくということで長野県観光機構のメンバーが地域の支援に動いています。これから先、美術館の姿が見えてくると同時にそれをどのように広域観光ルートに織り込むか、打合せを観光機構と一緒にやっていただければ、旅行会社とも連携をとっているのが非常に効果的になります。

それから、この度、長野県の公式観光サイトを一つにまとめる形でリニューアルしました。市町村などとも連携し、県の公式サイトに入るとそこから各市町村などの観光情報サイトや各施設のページに繋がるようにしてあり、また多言語のページも用意してあるので、その中で信濃美術館のホームページにも上手く繋がるようにすれば効果的に発信できます。長野県観光部や長野県観光機構と打合せをすると、いろいろなアイデアがあると思うのでご活用いただきたいです。

(橋本委員)

資料1①は子どもと大人に分けていますが、高校生や大学生はどちらに入るのか分からない。どこの美術館も高校生や大学生の来館数は少ないですが、長野県の場合、県の美術教育研究会の中には高校も関わっています。全国的な状況としては義務と高校で分かれています、高校は高校で一つの連盟がありますが、その中でとりわけ、市立長野、塩尻、上田などは積極的に美術館との連携を求めている先生がいます。ぜひ高校との連携をとってほしいです。

大学の場合、2014年に信州大学と信濃美術館が協定を結び、その年に信州大学と信濃美術館のコラボ展を行ったほか、その年の前後に教育学部の美術の卒業生の制作展を行いました。その後県立大学も出来ましたし、清泉女学院が今後学芸員資格を取得できるようにするという話もあり、近隣の大学と連携をとるということが大事で、子どもと大人の間を埋める部分は重要になってくると思えます。

(中平委員)

中学でアートプロジェクトを企画してやっていたことがあります。そのとき高校生にボランティアをやってもらったり、大学生に入ってもらったりしました。高校生や大学生は学びたいという意欲が強いので、ボランティアという視点でも非常に動いていただけるので、高校生、大学生との連携は是非お願いしたいです。小学生や中学生にとっても、年の離れた大人より高校生や大学生の方がずっと入っていきます。割と近い将来の自分の姿に見えるので、子どもとの関わりとしては、逆に子どもたちと近い美術館になっていくと思います。

シニア世代の美術館利用者が多いと言う話ですが、これから将来を考えていくと子ども世代に興味を持ってもらうことは大切で、今の子ども達が将来的に美術館に行くようになれば、その子どももという形で、教員もそういった目で美術館と関わっていかねばいけないと思いますし、子ども達から見ても大人との間の世代の活躍は大事だと思います。

金沢 21 世紀美術館では、小学生はバスを出して授業時間に美術館に来られるような取組をしていて、全学年、市外からも来ています。それが羨ましいとっていて、実現すればよいと思います。中学生に美術館に行ったことがあるかと聞くと、学校で行く以外にないと答えます。記憶がないというか、行ったかもしれないが記憶に残っていない。松本市美術館の草間弥生展にはかなりの生徒が行っており、やはりメディアの力は大きい。子ども世代の記憶に残るような美術館なってほしいです。

(竹内委員長)

金沢市の場合、小学校中学年の時に美術館に行く経験があれば、一生行くだろうという設定の下に市を挙げてやっています。

(渡辺委員)

SBCもそうですが、子どもがバスで社会見学に来ますが大体放送局と県庁のようですが、そういうところに美術館も入れて欲しい。そういう所に売り込むと一つのきっかけになるかもしれないです。

(樋口委員)

美術の全国規模のコンクールというと何がありますか。

(橋本委員)

ぺんてるが世界児童画展、さくらクレパスが全国美術教育展など規模の大きな児童画展を開催していて合わせて二十数万点の作品が集まっています。長い歴史があり戦前から行われているものもあります。その他にもたくさんあり、現場の先生が悩むのはたくさん公募があることで、図工、美術、音楽の授業時間数が減り、1年間フルにない中、日常の時間数が少ない上に、そういった公募があるということです。

(樋口委員)

長野では水彩画展や北信美術展などがありますが、そこで終わってしまっています。うまくその代表作を寄せてもらうような、例えば全国ネットで美術館に何か縁を作ってもらえることが大事だと思います。一つの方法として、自分の作品や仲間の作品がそこに展示されると言うのがきっかけになるとよいと思います。それがツーリズムにもつながってきますので検討をお願いしたいです。

(福島委員)

子どもの頃の環境によって大人になってからつながっていくので、小学生の頃から学校の授業の中で絵を描くことを入れていただきたいです。

(山浦委員)

信濃美術館という名前については検討されているのでしょうか。最近ネーミングライツも増えています。ランドスケープミュージアムという言葉もあるが、英語では何と言うのかということもあります。

(竹内委員長)

これまでの議題の中では、まだ具体化になっていません。

(山浦委員)

美術館はたくさんあるが、美術館関係の協議会はどういう状況になっているのか。長野県には、一人の作家を集めた美術館もあれば、それぞれ個性があります。旅行も兼ねていい企画ができるとよいと思います。県立美術館ですからぜひ音頭をとってほしいです。

(竹内委員長)

今回やろうとしていることの中で、ネットワーク、データベースで全県をフォローしようとする動きもありますから、これからは変わってくると思います。

(山浦委員)

信濃美術館の目玉の作品はありますか。何をもって目玉というか、ということもありませんが。この作家を観たいという人には、一点でもそれがあればその作品をどこへでも行って観たいという想いがあるので、そういうものに応えられていくようなことも考えられます。

常設展でこの作家のこの作品を観たいと思って行ったら、たまたま貸出中であまりして帰って来ることがあり、そういうことを救う方法は考えられないものでしょうか。

(松本委員)

コレクションについては、専用ギャラリーのある美術館では部屋が空いていれば展示するということでした。作家で言うと、東山魁夷が千点弱、池田満寿夫が千点、河野通勢、この三人で二千点程あります。県立美術館は長野市にあります。他に飯田の菱田春草の作品もあり、長野県生まれの作家の作品を一点も持っていないのはすまないで、コツコツと集めたコレクションです。山浦委員の言う、楽しみにしていくとよほど運が良くないと展示されていないという問題は、油絵ならばかなり解決できますが、日本画に関しては非常に難しい。近代明治以降の作家で重要文化財4点というのは菱田春草だけですので、全国的な作家の作品を、70年代から集めてよく十何点集めたと思います。わざわざ来られる方の期待をできるだけ外さないよういかに展示するか、今来ていただければこれが見られます、そういう案内も必要だと思います。

目玉となる作品について、有名なのは山梨県立美術館のミレーで、当時1億円弱で購入したものは、今買おうとする数十億になると思います。日本に関しては、やはりこれこそというものは頑張ったからといって見つかるものではなく、お待ちいただくしかないです。

いずれにしても、何が観られるのかということを中心に情報発信していくことが重要ではないかと思えます。

(橋本委員)

県が山の日を制定したときに、その年に信濃美術館では山の絵を信濃教育会と共同で展示しました。信濃美術館がクローズする時、思い出を残そうと作品を描いてもらったので、新しい美術館ができたなら新しい美術館を描こうとか、夢の展覧会を描こうとか、前の美術館の絵と比べてみるとか、他にもいろいろな方法があると思いますが、子どもの活動に注目を浴びるようなことも考えられます。子どもは建物の絵を描くのが好きなので、作品を観に来るばかりでなく、そういった活動で遠くの方からも来ていただくことも考えてみてはどうかと思います。その中から新しい美術館独自のコンクールが始まれば良いと思います。

(2) 運営費の試算の検討経過

(竹内委員長)

それでは次に運営費の試算の検討状況について、日向室長からお願いします。

(日向日向整備室長)

資料2により説明

(竹内委員長)

ご質問はありませんか。まだ数値に幅がありますが、何かあれば後ほどお願いし

ます。

(3) 報告事項

次に報告事項は二つあります。東山魁夷館のリニューアルオープンと、新しい美術館の建設の進捗状況です。

最初に日向室長から、資料3-1について説明をお願いします。

(日向室長)

資料3-1 (1頁) について説明

(竹内委員長)

続いて記念展について井上副館長からお願いします。

(井上信濃美術館副館長)

資料3-1 (2頁) について説明

(橋本委員)

夫婦割に関連し、すみだ北斎美術館では誕生月割引を行っています。今、小布施町の作品を展示しているので、長野県から来られた人は割引いています。割引を知って来る方もいるので、夫婦だけでなく、広くどんどんやったほうがいいと思います。

(竹内委員長)

多くの方に来てもらいたい、稼がなければいけない、バランスが難しいと思いますが話題性も大切ですね。

次に信濃美術館建設工事の進捗状況について、建設部から説明をお願いします。また、本日は設計者の宮崎さんにも来ていただいておりますので、現在の状況をご説明願います。

(久保田施設課企画幹)

資料3-2により説明

(株)プランツアソシエイツ宮崎代表)

4月から本格的に工事が始まり8カ月という段階で、非常に順調に進んでいます。特に今回は特殊な工程を組み、収蔵庫、展示室は全てコンクリートでしっかり守るという計画をしており、その部分を先行して工事を行っています。この12月にコンクリートの打設がほぼ完了します。公開承認施設としては二夏越すことが重要な条件ですが、コンクリート打設後一夏越した段階でほぼ所定の性能は出るだろうと思っ

ています。したがってオープン時には公開承認施設としての貸出は無理としても、建物の性能としては問題ないだろうと思います。逆にエントランスホールなど作品と関係のないところは後から工事をしています。

それから基本設計の話をさせていただいた頃、熊本豪雨はじめ何回も豪雨を経験する中で、水に関するご指摘があり、それに基づき設計しましたが、今回台風19号を現場が経験しました。その時、敷地の水の流れなどが分かったので、現場としてはある意味いい経験をさせてもらいました。あの時心配していたのが、東側の高い所にある神社の方からの水の流れとか、流木がもしも展示室の方に来たらどうなるかとか、あの豪雨の中の水の流れを現場が把握し、善光寺側の交差点付近の水の流れも分かりました。

また、現場と美術館の意識合わせのため、常にモックを作って見てもらいながら工事を進めています。来年は美術館だけの工事ではなく、市の公園の工事が本格的に始まります。県の交差点改良、善光寺の交差点改良、元NHKの建物の解体工事などかなりの工事が始まり、まだ発注されていない公園内の待合プラザの工事も出るので、かなり混乱した状況の中、約1年で仕上げなければならない状況です。こういうことは予想されていたので、一番大事な部分が年内に仕上げられれば、全体としてもほぼ工程どおりに進むであろうと思います。

設計者としては、今後広報や集客も大事な話で、ランドスケープミュージアムというデザインの話として、当然意識しながらやっています。美術館としては最先端の観光施設であるというのもテーマの一つであり、そういうことも合わせていい美術館にしたいです。公共施設は一般の方にとっては、突然できると感じられることが多いので、これから1年は工事中の広報をソフトだけでなく、建築の方も公開しながら、中学生や高校生にも建築に興味をもってもらおうと思っています。広報の冊子も美術館が完成したものでなく、今こんな工事を行っているというパンフレットも作ろうとしています。工事を完成させるだけでなく、何人かでも建築に興味を持って、アートの世界に入ってくれるようなことにも協力したいです。

(竹内委員長)

枯らしという、コンクリートのガスは予想できないこともあり大変ですが、今のところ順調とのことです。

(4) その他

(竹内委員長)

その他、全体を通じて何かありますでしょうか。議題に関わらずいかがでしょうか。

(樋口委員)

先ほど御開帳のキャンペーンの話が出ましたが、具体的にいつ頃を予定している

のでしょうか。

(北村委員)

来年は東京オリンピックがあるので、今回は遅らせて考えています。前回のプレス発表は7月でしたが、今回はオリンピック・パラリンピック後の9月を予定しています。

(樋口委員)

9月の発表の時に、新しい美術館のパンフレットを、何をやるかも含めて決めておかないことには勝負にならない。美術館ができましただけでなく、こういう企画があって、御開帳期間中はこういう催しがある、ということをパンフレットのレベルにしておかないと困ります。

(北村委員)

信濃美術館にはイメージが分かるようなパンフレットの準備をお願いします。

(小坂委員)

この美術館の最大のコンセプトはランドスケープミュージアムなので、それはこういうものだと、パンフレットやホームページに掲載する写真をプロに上手く撮ってもらい、ぜひここに行きたいと思えるような、公園の外に広がる景色だとか、屋上から見える善光寺だとか、そういうものを芸術的な写真でアピールしてほしいです。

(竹内委員長)

本日本日予定された議題は以上のとおりです。円滑な議事進行にご協力いただきまして誠にありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

(細野課長補佐)

竹内委員長、ありがとうございました。

次回の委員会の開催は3月頃を予定しています。

本日の議事内容は、後日、各委員の皆様方に発言内容を確認していただいた上で、県のホームページに掲載させていただきますので、よろしくをお願いします。

5 閉 会

(細野課長補佐)

以上をもちまして、第8回信濃美術館整備委員会を閉会します。

皆様、ありがとうございました。

以上